

国際交流基金助成事業報告書

薬学研究科 薬学専攻

博士課程 4 年次生

野田 拓誠

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受け、2025 年 9 月 21 日から 24 日の 4 日間にわたりシンガポールで開催された 23rd International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology に参加し、「Exploring Involvement of the Immune System and Biomarkers in Brigatinib-Induced Liver Injury」という演題でポスター発表を行いました。

2. 学会について

International Association of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology (IATDMCT) は、TDM と Clinical Toxicology に関する国際学会です。今年は、「Creative solutions for global challenges」をテーマに国際的な交流拠点であるシンガポールにて開催され、世界各国から多くの医師や薬剤師をはじめとした専門家が参加しました。



写真 1 学会ポスター

3. 学会の様子



写真 2 Opening of Congress の様子

1 日目はワークショップと Opening of Congress に参加しました。ワークショップでは、マレーシアをはじめとする各国の研究者と同じグループになり、HPLC システムを用いた TDM の一連の過程を体験することができました。

Opening of Congress はシンガポールの伝統的なパフォーマンスであるライオンダンスから始まり、華やかな雰囲気の中で幕を開けました。その後の IATDMCT 2025 Award Presentations では、受賞された先生の講演を拝聴しました。発表内容はもちろん、プレゼンテーションスキルやスライドの完成度の高さに圧倒され、大きな刺激を受けました。

2 日目は Young Scientist Dinner に参加しました。40 歳以下の若手研究者が集い、国や専門領域を超えて交流を深めることができました。食事を通して研究内容や趣味、各国の文化について情報交換を行い、大変有意義な時間となりました。締めくくりには、参加者全員で IATDMCT 名物のカラオケに行き、国境を越えた大合唱となり大いに盛り上がりました。

3 日目はポスター・口頭発表の聴講、そしてシンポジウムに参加しました。特に印象に残ったのは、「Food-drug interaction in oncology: Implications for dosing, toxicity and economics of

care」というシンポジウムです。私は大学院生である一方、病院薬剤師として日常的にがん患者に携わっています。本シンポジウムでは、食事や栄養状態が薬物動態や治療効果にまで影響を及ぼすことが示されており、患者指導や副作用マネジメントに直結する内容でした。また、今後の研究活動にも大きく生かせると感じました。

夜には Congress Dinner に参加し、チリクラブをはじめとするシンガポールのシーフード料理を堪能しながら、多くの先生と意見交換を行うことができました。

4日目は「Exploring Involvement of the Immune System and Biomarkers in Brigatinib-Induced Liver Injury」という演題でポスター発表を行いました。英語での発表であったため、事前に原稿作成や発音練習を繰り返し準備しました。海外の参加者に伝わるか不安もありましたが、発表自体概ね伝えることができたと感じています。一方で、質問の意図を正確に理解できず、十分に回答できない場面もありましたが、今後の課題や研究の方向性について有益なコメントをいただくことができ、有意義な発表となりました。



写真 3 Congress Dinner の料理

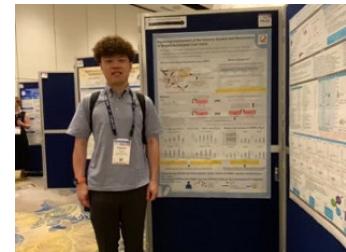


写真 4 ポスター発表の様子

4. シンガポールについて

学会の合間には、シンガポール中心部を散策しました。マーライオンやマリーナベイ・サンズ周辺を訪れ、近代的な都市景観と自然が調和したシンガポールの魅力を感じることができました。また、多国籍な文化が融合した街並みや多彩な食文化にも触れることができ、国際都市としての特徴を実感しました。



写真 5 マーライオン



写真 6 マリーナベイ・サンズ



写真 7 天天海南雞飯のチキンライス

5. 最後に

今回、国際交流基金の助成により、シンガポールで開催された 23rd International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicologyにおいてポスター発表を行う貴重な機会をいただきました。日本の学会とは異なる雰囲気を体感するとともに、言語の壁の大きさを改めて実感する学会もありました。海外の先生のみならず、海外でご活躍されている日本の先生の発表を間近に拝見し、直接お話しすることができたことは、大きな刺激となりました。この経験を糧

に、今後は自らも海外の学会で積極的に発信し、国際的に活躍できる薬剤師を目指してまいります。

最後に、今回の国際交流事業を助成下さった大阪医科大学国際交流基金に厚く御礼申し上げます。また、その他様々な面でサポート頂いた方々に深く感謝致します。



写真 4 Congress Dinner の様子